

## ■ 本文

中納言参りたまひて〔①〕、御扇奉らせたまふ〔②〕に、「隆家こそいみじき骨は得てはべれ〔③〕。それを張らせて参らせむとするに、おぼろけの紙はえ張るまじければ、求めはべるなり。」と申したまふ〔④〕。「いかやうにかある。」と問ひきこえさせたまへば〔⑤〕、「すべていみじうはべり。『さらにまだ見ぬ骨のさまなり〔⑥〕。』」となむ人々申す。まことにかばかりのは見えざりつ。」と、言高くのたまへ〔⑦〕ば、「さては、扇のにはあらで、くらげのななり〔⑧〕。」と聞こゆれば、「これは隆家が言にしてむ。」とて、笑ひたまふ。

かやうのことこそは、かたはらいたきことのうちに入れつべけれど、「一つな落としそ。」と言へば、いかがはせむ。

## ■ 設問 (全24問)

- 傍線部(1)「参りたまひて」について、(ア)「参り」の敬語の種類と誰への敬意か、(イ)この動作の主語は誰かを、それぞれ答えなさい。
- 傍線部(2)「御扇奉らせたまふ」を現代語訳しなさい。
- 傍線部(2)「御扇奉らせたまふ」の敬語について、次の小問に答えなさい。
  - 「奉ら」の敬語の種類(尊敬・謙譲・丁寧)を答えなさい。
  - 「奉ら」は誰から誰への敬意か答えなさい。
  - 「せたまふ」の敬語の種類を答え、これが誰から誰への敬意かを説明しなさい。
- 本文中の会話「隆家こそいみじき骨は得てはべれ」(傍線部(3))を現代語訳しなさい。「こそ～はべれ」の結びと「はべり」の意味に注意すること。
- 本文中の係助詞「こそ」(「隆家こそいみじき骨は得てはべれ」)について、これによって文末が「はべる」ではなく「はべれ」になっている。このきまりを何とというか、漢字で答えなさい。
- 次の本文中の語の意味を答えなさい。
  - 「いみじき」(いみじ)
  - 「おぼろけの」(おぼろけなり)
  - 「かたはらいたき」(かたはらいたし)
- 本文中の「おぼろけの紙はえ張るまじければ」を現代語訳しなさい。「え～まじ」のはたらきに注意すること。
- 傍線部(4)「申したまふ」を、敬語の意味がわかるように現代語訳しなさい。
- 傍線部(4)「申したまふ」には二方向の敬語が含まれている。次の小問に答えなさい。
  - 「申し」の敬語の種類を答え、誰から誰への敬意かを説明しなさい。
  - 「たまふ」の敬語の種類を答え、誰から誰への敬意かを説明しなさい。
- 傍線部(5)「問ひきこえさせたまへば」について、次の小問に答えなさい。

「きこえ」の敬語の種類を答え、誰から誰への敬意かを説明しなさい。

「させたまへ」の敬語の種類を答え、誰から誰への敬意かを説明しなさい。

11. 傍線部(6)「さらにまだ見ぬ骨のさまなり」を現代語訳しなさい。「さらに」の意味に注意すること。
12. 本文中の「となむ人々申す」の「なむ」は係助詞である。この「なむ」の結びにあたる語を本文中から抜き出しなさい。
13. 傍線部(6)のあとの「まことにかばかりのは見えざりつ」の「ざり」「つ」について、それぞれの助動詞の意味（はたらき）を答えなさい。
14. 傍線部(7)「言高くのたまへば」を現代語訳しなさい。「のたまふ」の敬語の意味を反映させること。
15. 傍線部(8)「くらげのななり」の「ななり」を文法的に説明しなさい。次の小問に答えること。
  - 「ななり」のもとの形（音便が起こる前の形）を答えなさい。
  - 「な」のもとになっている助動詞の名称と、その活用形を答えなさい。
  - 下の「なり」の助動詞の名称（意味）を答えなさい。
  - どのような音便が、どのように表記された結果「ななり」になったのかを説明しなさい。
16. 傍線部(8)「くらげのななり」を現代語訳しなさい。
17. 清少納言が「くらげのななり」と返したのは、どのような機知（しゃれ）によるものか。中納言の発言を踏まえて、四十字程度で説明しなさい。
18. 清少納言が中納言の自慢に対して「くらげ」を持ち出したのはなぜか。くらげのからだの特徴と、中納言が自慢した「骨」とを結びつけて説明しなさい。
19. 清少納言の返答を聞いた中納言は「これは隆家が言にしてむ。」と言って笑った。この中納言の言葉を現代語訳し、そこに表れた中納言の気持ちを簡潔に説明しなさい。
20. 本文末の一文「かやうのことこそは、かたはらいたきことのうちに入れつべけれど、『一つな落としそ。』と言へば、いかがはせむ。」を現代語訳しなさい。
21. 「一つな落としそ」の「な～そ」は、どのような意味を表す言い方か答えなさい。
22. 【文学史】『枕草子』について、次の小問に答えなさい。
  - (ア) 作者名を答えなさい。
  - (イ) ジャンル（文章の種類）を答えなさい。
  - (ウ) 成立した時代を答えなさい。
23. 【文学史】『枕草子』全体を貫くとされる美的理念を表す語を、ひらがな三字で答えなさい。また、この章段のどのような点にその美的理念がよく表れているかを簡潔に説明しなさい。
24. 【文学史】『枕草子』とほぼ同じころに成立し、作者がともに一条天皇の後に仕えた長編物語がある。その（ア）作品名と（イ）作者名を答えなさい。また、その物語に流れる美的理念を表す語を（ウ）答えなさい。